



《Web コラム No.7》

アクセス解析は点・線・面の視点で

アクセス解析では、通常、前月比など、その時点におけるページビューやセッション数、平均サイト滞在時間、ユーザー数、コンテンツ、キーワード、参照元、ページ遷移、直帰率、離脱率、コンバージョンなどの基本項目をグラフ化し、それをもとに分析するケースが多いようです。いわば、あるタイミングにおける「点」としての分析です。

もちろん、いずれの項目も Web サイトに訪れるユーザーの動向を把握し、分析する上で大変重要な情報ばかりですが、これらのデータは、更新の有無やキャンペーンの有無、その商品・サービスに関する国内外におけるニュースやイベントの有無などによっても変動します。したがって、まずは、その時点におけるグラフやデータの変動を正確に把握・分析することがアクセス解析の基本となります。

一方、データ変動を単に 1~2 ヶ月間の差異だけでなく、半年間、1 年間、場合によっては数年間にわたり時系列的に把握することも効果的です。これにより、「点」から「線」、さらには上下動や左右の幅も考慮に入れた「面」の視点で、過去のトレンドを分析することができます。

トレンドを「線」の視点で見た場合に顕著に現れる現象は何か、なぜ、その現象が発生したのか(または発生しているのか)、ビジネス成果を上げるために、その現象の何を、どのように解決すれば良いのか、などを他の解析指標を併用しながら分析し、レポートにまとめます。また、「線」だけでなく、現在と過去の同時期を比べて、上下動や左右の幅に大きな差異が見られる場合がありますが、そのエリアを「面」として捉え、その現象の原因と対策を合わせて検討することも大切な作業です。

膨大なアクセス・データを、毎月(点)、時系列的に(線)、立体的(面)な視点で分析することにより、過去や現時点の問題点を大局的に把握、抽出でき、それに対する解決策を見出すことができます。また、同時に、今までに取得したデータは、単なる過去データではなく、Web サイトの将来予測データとして活かすことができる貴重なデータであることも忘れてはならないポイントの一つです。